

式 辞

自然豊かなここ丹波高原、蒲生野ヶ原も柔らかな日差しとともに春の訪れを感じる季節となりました。

本日、令和三年度京都府立須知高等学校卒業証書授与式を挙行しましたところ、保護者の皆様には、御多用の中、御臨席を賜り、高壇からではありますが、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、日頃より、本校の教育活動の推進に、格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し

上げますとともに、今後とも変わらぬ御支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

さらに、本年度の卒業式も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、参列者の人数制限、換気・消毒の徹底、時間を短縮するなどの形式となりますことに対し、御理解をいただくとともに、御協力の程よろしく願いいたします。

さて、ただ今卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんが手にした卒業証書は三年間にわたり、勉強、農業クラブ活動、部活動などに励み、様々な困難を乗り越え、積み重ねてきた成果の証であります。コロナ禍により高校生活のほとんどの行事が変更や中止となり、不安な日々を過ごされたと思います。しかし、皆さんはそのような状況の中でも冷静に対応し、それぞれの進路に向けて一生懸命に頑張っ
てこられました。皆さんも須知高校での学校生活を振り返り、様々なことがよみがえっ

ていることと思います。こうして卒業を迎えられるは、皆さんの努力はもちろんのこと、保護者をはじめご家族の方々の支援があったからだと思います。お世話になった方々には改めて皆さんから感謝の気持ちを伝えて欲しいと思います。

皆さんは四月一日から民法改正に伴って成年となります。成年となれば、様々なことが自分自身の判断で可能となる一方で、その責任と覚悟が必要となります。

そうした社会で活躍していく皆さんに、日本のプロ野球とアメリカのメジャーリーグで活躍されたイチローさんの言葉を紹介し、はなむけの言葉としたいと思います。イチローさんがメジャーリーグで活躍されていた頃、イチローさんは、ハドソンという投手に何試合も抑え込まれていました。その時のインタビューで記者の方がイチローさんに対して「ハドソン投手は、できれば対戦したくない苦手なピッチャーですか」と尋ねました。

するとイチローさんは「いえ、彼は私というバッターの可能性を引き出してくれる素晴らしいピッチャーです。だから私も練習をして彼の可能性を引き出せるバッターになりたいですね」と答えられました。その翌年には、イチローさんはメジャーリーグ年間最多安打記録を樹立されました。このようにイチローさんは試練や困難があっても、自分を成長させるチャンスと捉えておられたところにメジャーリーガーとしての覚悟を感じました。

皆さんも今後、社会で活躍していく中で様々な試練や困難に立ち向かう場面があると思います。そんな時こそ、成年としての覚悟を持って、前向きに自分を成長させるチャンスと捉えて立ち向かっていって欲しいと思います。

あとになりましたが、保護者の皆様、本日はお子様の御卒業おめでとうございます。三年間の学業を立派に終え、頼もしく成長された姿に感激を新たにされておられることと存

じます。私たち教職員一同、保護者の皆様の御期待に沿えるよう努力して参りましたが、至らぬ事も多々あったことと思えます。お許しをいただきたいと存じます。

今日までの保護者の皆様の御協力に感謝申し上げます。引き続き、須知高校への御支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

結びにあたり、卒業生の皆さんの今後の活躍を心から祈念し、式辞とします。

令和四年三月一日

京都府立須知高等学校

校長 湯川 佳秀

